資料提供(投げ込み)　　令和元年１０月２日（水）	
場所　津市政記者室	
事　務　担　当　課	
所　　属	職・氏　名
建設部　津北工事事務所 （電話０５９－２５３－２２７２）	維持担当副参事 水谷　　誠

津市藤水地区でハンプの実証実験を実施
～「暮らしの道」の安全対策に向けて～

このことについて、その内容は、別紙資料のとおりです。

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和元年10月2日
国土交通省 中部地方整備局
三重河川国道事務所
津市

津市 藤水(ふじみず)地区 でハンプの実証実験を実施

～「暮らしの道」の安全対策に向けて～

1．概 要

国土交通省では、ETC2.0 プローブ情報等のビッグデータを活用して、生活道路の交通安全確保を目的とした技術支援を行っています。

津市では、藤水地区の生活道路において、歩車道の分離がされていない通学路区間において抜け道利用が多く、速度が高い状況であることに着目し、交通安全対策を検討しています。

今回、国土交通省が貸与する仮設ハンプを「藤水地区」の市道に設置し、設置前後での交通量や走行速度の変化などの効果を検証する実証実験を実施します。

実験内容：可搬式ハンプ設置による生活道路交通実証実験
設置期間：令和元年10月8日～11月6日（予定）
実験場所：三重県津市藤水地区（市道藤方第18号線）
※実証実験の効果検証にあたり、現地にて走行速度等の調査を実施します。

2．資 料　　津市藤水地区での仮設ハンプ実証実験（概要）

3．解 禁　　指定なし

配布先
三重県政記者クラブ、第二県政記者クラブ 津市政記者クラブ

問い合わせ先
＜生活道路安全対策支援に関するお問い合わせ＞ 国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所 総括保全対策官 池田(いけだ) 泰幸(やすゆき) TEL：059-229-2222 道路管理第二課長 平岩(ひらいわ) 直樹(なおき) FAX：059-229-2380 ＜実証実験全般に関するお問い合わせ＞ 津市役所 建設部 津北工事事務所 維持担当副参事 水谷(みずたに) 誠(まこと) TEL：059-253-2272 FAX：059-253-2273

道路の異状を発見したら・・・道路緊急ダイヤル #9910 （通話料無料・２４時間受付）

藤水地区（津市）での仮設ハンプ実証実験（概要）

日常生活で利用する“生活道路”では、交通事故が多く発生しています。生活道路を通り抜ける自動車や、スピードが速い自動車が多いことが、交通事故発生の原因のひとつになっています。こうした問題に対し、道路上にハンプ（こぶ）を設置し速度を抑制する実験を行います。

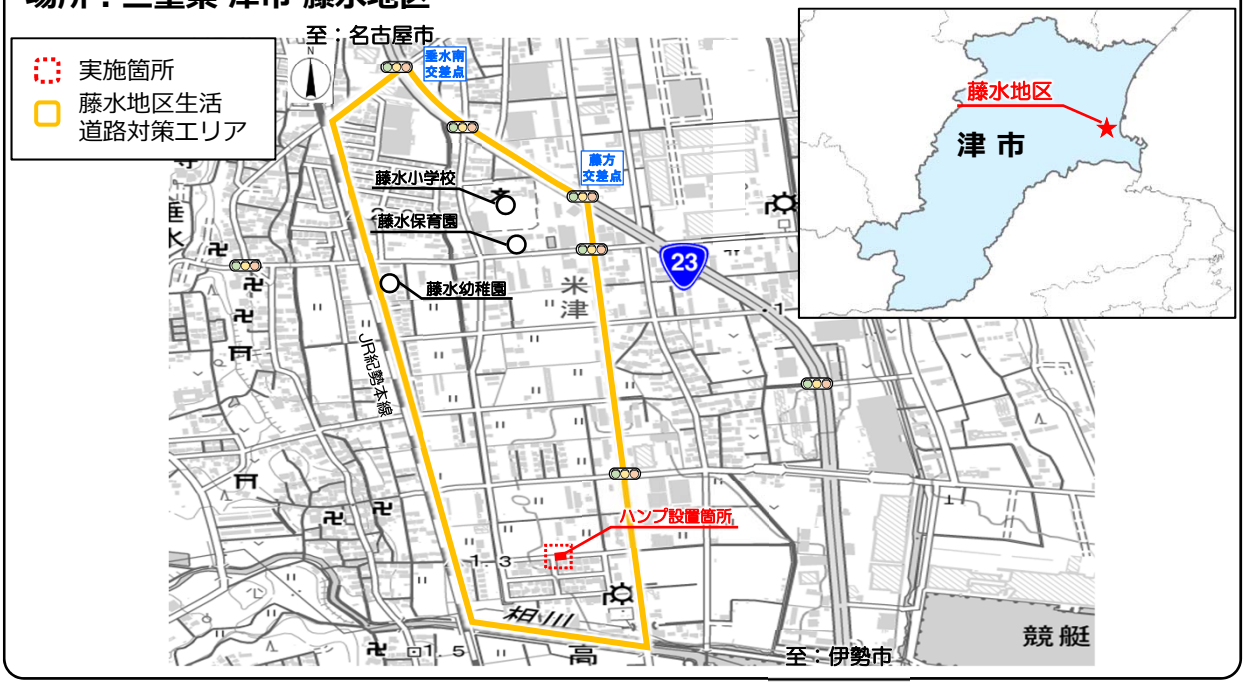
【実施スケジュール】

実証実験の実施　：　**令和元年10月8日（火）～ 令和元年11月6日（水）**

【仮設ハンプの設置場所】

下記の位置図に示す箇所において実証実験を実施します。

場所：三重県 津市 藤水地区



【実証実験と調査の内容】

実証実験は以下の流れで実施していきます。

周知
・回覧
・看板設置

事前調査
・速度調査
・交通量調査

実証実験
仮設ハンプの設置

事後調査
・速度調査
・交通量調査
・アンケート調査

効果検証
・走行速度
・通過交通量

9月中旬 ― 9月下旬 ― 10月上旬 ～ 11月上旬 → 12月

【今後の予定】

「仮設ハンプ」の実験にあたり速度等を把握するための事前調査および事後調査を実施し、ハンプの効果を検証していきます。

＜参考＞生活道路について

みなさんの生活の一部として利用される歩行者中心の暮らしの道

【生活道路とは？】

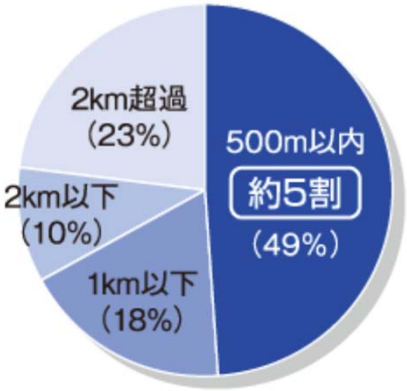
生活道路とは、地区に住む人々が通学や買い物といった日常生活の中で自宅周辺の比較的狭い範囲での移動や、最寄りの幹線道路に出るまでに利用する道路の事をさし、自動車が頻繁に通行しない、歩行者中心の暮らしの道と位置付けられています。

生活道路のイメージ

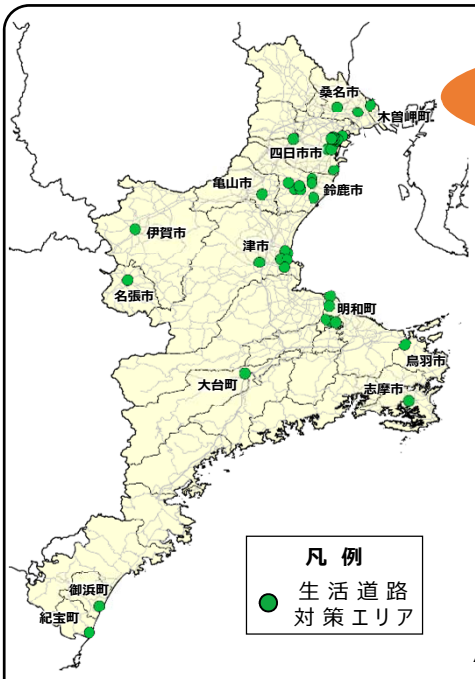
【生活道路の現状】

生活道路での歩行者・自転車事故が多く発生しており、その半数は自宅周辺500m以内の生活道路で発生しています。

こういった状況を解決するためには、危険な箇所を事前に把握し、適切な対策を実施する必要があります。そこで、国土交通省、警察及び各道路管理者が連携し特に危険性が高いエリアを「生活道路対策エリア」に選定し交通安全対策を実施しています。



自宅からの距離別死者数の割合



生活道路対策エリア

三重県内では14市町44エリア※1を生活道路対策エリアに選定しました。

そのうちのひとつが津市『藤水地区』です。

※1 令和元年7月末時点

ハンプとは？

自動車の速度抑制のために道路上に設けられた台形状の“こぶ”のこと。

今回の実証実験では取り外し可能な「仮設ハンプ」を設置し、設置前後の交通量や走行速度の変化などを検証するとともに生活道路への影響を調査します。